

(株)清水合金製作所



製造部製造2課

柿添 大輔さん

工業高校機械科卒
入社12年目

国内トップの実績

清水合金製作所は昭和22年創業の水道用バルブメーカー。生産及び検査台数(日本水道協会)は国内トップの実績を誇る。

「当社は水道用の仕弁、補修弁、空気弁などのバルブを製造・販売し、近年は、災害時などに対応できる小型の浄水装置も手掛けています。トヨタのかんばん方式をベースにした生産体制を導入し、生産技術・システムの高度化を図っているのが特徴です」と話すのは製造部製造2課の柿添大輔さん。

柿添さんは工業高校の機械科で学び、モノづくりにへの関心があった。「地元彦根市の3大地

場産業のひとつがバルブです。そうした背景もあって、在学中には先生方から話も聞いていましたし、自分の関心とやりたい仕事がマッチするところから、当社への就職を決めました」と語る。

在籍する製造第2課は、機械加工、組み立て、塗装など二連の工程を担当する。「入社当初はひたすら勉強で、先輩からのOJTによって技術を学びました。今は主に大口径のバルブを担当しています。高い機能性を有する高付加価値のバルブが多く、ひとつひとつにこだわりのある製品ですから、作業の中で技術者としての自信が深まります」と年々、仕事の充実度は増しているという。

風通しの良い 企業文化

日常業務の中で、常に職場改善にも取り組んできた。

「作業上の改善点が見つかったら、社内ですぐ話合

い、その解消に努める社風があります。もっと改良すれば効率的にできる」と、改善策を提案します。改善提案によって、さらに働きやすく、安全な職場の構築を目指しています。

「先輩方から応援してもらえるのが嬉しく思います」と上下の関係なく、意見を言い合える風通しの良い企業文化の魅力だ。

水で社会に貢献

改善運動の成果の一つが「弁箱弁座圧入の重筋作業軽減」。2021年に文部科学大臣表彰を受けた。

「弁箱本体はかなりの重量です。空気圧で弁箱を持ち上げることで、容易にスライドできるようになって、重筋作業が軽減できるものです。こうした改善作業は今も続いています。アドバイスを受けながら改善案を実現させていますし、先輩が

「当社がスローガンは『水で社会に貢献する』。能登半島地震で水道の重要性が再認識されています。当社も社員を派遣し、小型浄水装置2台を整備しました。ライフラインを支える水道に携わっていることは、社会への貢献が実感できる、やりがいのある仕事です。一緒に働いてもらえればと思いますね」と呼び掛けた。

社会貢献を実感できる仕事 改善提案で大臣表彰も



大口径バルブの水圧検査、塗装を担当